

THE 54TH KANAGAWA ART EXHIBITION 2018

第54回

神奈川県 美術展

全国公募展

神奈川県美術展委員会・神奈川県民ホール・神奈川県

第54回神奈川県美術展

The 54th Kanagawa Art Exhibition 2018

1期展 [平面立体]
平成30年9月5日(水)～9月16日(日)

2期展 [工芸・書・写真]
平成30年9月19日(水)～9月30日(日)

会 場
神奈川県民ホールギャラリー

厚木巡回展
平成30年10月3日(水)～10月13日(土)
休み：10月9日(火)・10日(水)

会 場
厚木市文化会館展示室

主 催
神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール
[指定管理者：(公財) 神奈川芸術文化財団]
神奈川県

共 催
(公財) 厚木市文化振興財団

協 賛
(公財) はまぎん産業文化振興財団
神奈川県文具事務用品団体連合会
(株) ニコニイメージングジャパン
(株) ホテル、ニューグランド
松田油絵具(株)

後 援
神奈川新聞社・NHK 横浜放送局
tvk (テレビ 神奈川)・FM ヨコハマ
横浜高速鉄道(株)

第54回 神奈川県美術展 関係者名簿

(平成30年9月5日現在)

神奈川県美術展委員会

委員長 磯見 輝夫
副委員長 林 義亮

委員
水沢 勉 五十嵐 卓 尾長 良範
福士 朋子 笹山 央 川口 淳
川口 流坡 西村 東軒 伊奈 英次
関次 和子 大場 勇人 折原 守

審査員

平面立体
五十嵐 卓 大卷 伸嗣 加藤 良造
福士 朋子 粕山 昌夫

工芸
池本 一三 川口 淳 笹山 央
鈴木 純子 松島さくら子

書
笠嶋 忠幸 西村 東軒 船本 芳雲
水川 舟芳 三原 彩鈴

写真
伊奈 英次 桐谷麗子子 菅沼比呂志
関次 和子 圓井 義典

応募・入選・入賞者数一覧

	平 面	立 体	工 芸	書	写 真	合 計
応 募	294 人 (364 作品)	60 人 (65 作品)	152 人 (173 作品)	169 人 (169 作品)	202 人 (465 作品)	877 人 (1,236 作品)
入 選	89 人 (89 作品)	28 人 (29 作品)	100 人 (102 作品)	91 人 (91 作品)	61 人 (61 作品)	369 人 (372 作品)
内、入 賞	10 人 (10 作品)	3 人 (3 作品)	10 人 (10 作品)	9 人 (9 作品)	9 人 (9 作品)	41 人 (41 作品)

※入選・入賞数は、平成30年7月19日時点で確定した数字です。

ごあいさつ



芸術の秋を迎え、今年も皆様から意欲と創意あふれる数多くの作品を御出品いただき、神奈川の文化芸術の力を結集した神奈川県美術展を開催できますことを、主催者の一人として大変嬉しく思います。また、本美術展の開催にあたり御尽力いただきました関係の皆様にご心からお礼申し上げます。

神奈川県美術展は、今年で第54回を迎える県内最大規模の公募美術展です。昭和40年の創設以来、芸術家を志す方から、趣味として創作活動に取り組まれる方まで、幅広く作品を発表する場として、長年にわたり県民の皆様にご親しまれてきました。また、本美術展の水準は非常に高く、ここでの入賞を機に、これまで多くの方が全国、そして世界へと羽ばたいていきました。

今回も、平面立体、工芸、書、写真の各部門合わせて1,236点と大変多くの応募がありました。会場には、数々の力作の中から厳正な審査を経て選ばれた素晴らしい作品の数々が展示されています。作家の方々が心を込め、自由な発想を表現した才能あふれる作品は、きっと来場された皆様を魅了することでしょう。

県では、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグネット・カルチャー（マグカル）の取組を推進しています。

また、ラグビーワールドカップ2019™や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機会をとらえ、より多くの方々に本県の文化芸術を鑑賞いただくことに力を入れています。豊かな感性に優れた芸術性を持つ作品が一堂に会するこの神奈川県美術展は、こうした取組を更に加速する大きな力になるものと期待しています。

最後に、このたび御出品くださいました皆様の、創作活動への情熱に深く敬意を表しますとともに、皆様のますますの御活躍を心からお祈り申し上げます。

平成30年9月5日

神奈川県知事 黒岩祐治

ごあいさつ



神奈川県美術展は、本県における美術の普及振興をはかり、県民文化の向上と作家の育成に寄与することを目的に、昭和40年に始まりました。県内随一の公募美術展として広く県民に親しまれるとともに、新進作家の登竜門としてこれまで多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに多くの皆様のご尽力の賜物と心より感謝を申し上げます。

全国公募となって3年目の本年は、多くの地域から応募作品が集まりました。応募数は、平面立体、工芸、書、写真の全4部門で1,236点となり、各部門の厳正な審査の結果、全372点の入選、入賞作品が選ばれました。

本展は、多彩な美術作品を一度にお楽しみいただける絶好の機会です。また、神奈川県民ホールギャラリーの展示空間を活かした大作も見どころの一つです。

さまざまな想いのもと、多くの時間をかけ制作に臨まれ出品された、全ての皆様に敬意を表したいと思います。そして、これからもこの神奈川県美術展において、新たな時代を切り開くような美術作品と出会えることを祈念いたします。

本展において、厳正かつ丁寧な審査にあたられた審査員の皆様と、運営に関し専門的な立場からご助言をいただきました委員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

さらに、各賞を賜りました公益財団法人はまぎん産業文化振興財団様、神奈川県文具事務用品団体連合会様、株式会社ニコンイメージングジャパン様、株式会社ホテル、ニューグランド様、松田油絵具株式会社様、公益財団法人厚木市文化振興財団様をはじめ、ご関係の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成30年9月5日

神奈川県美術展委員会委員長 磯見輝夫

目次

1 期展 平面立体

受賞作品目録 平面立体	6
入選作品目録 平面	7
入選作品目録 立体	8
審査講評 平面立体	9
平面立体 受賞作品	10

2 期展 工芸・書・写真

受賞作品目録 工芸・書・写真	20
入選作品目録 工芸・書・写真	21
審査講評 工芸	25
工芸部門 受賞作品	26
審査講評 書	33
書部門 受賞作品	34
審査講評 写真	40
写真部門 受賞作品	41

平面立体

1 期展

受賞作品目録

平面立体

大賞	高橋 静江	愛知県	CITY LIFE	平面
準大賞	張 静雯	東京都	城	平面
特選	手嶋 遥	東京都	螢	平面
奨励賞	宙宙	愛知県	Cube of the Light 1	立体
かながわ賞	リンデン絢子	横浜市	Sinking in Oasis	平面
かながわ賞	秋山 由佳	横浜市	樹	平面
県立近代美術館賞	大井 真希	茨城県	cantabile	立体
県議会議長賞	豊原 聖一	相模原市	あたしのおねだり	平面
美術奨学会記念賞	伊藤ちさと	埼玉県	doily	平面
美術奨学会記念賞	都築 良恵	埼玉県	緑子	平面
はまぎん財団賞	澤村崇太郎	横浜市	あとどれくらい僕は深く潜れるだろう	立体
マツダ賞	小林 真央	横浜市	Mont Blanc March	平面
厚木市文化振興財団賞	小平 功一	厚木市	One fine day 2018	平面

※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の出品者を対象とした賞です。

※県立近代美術館賞は、平面立体部門において神奈川県立近代美術館による作品買い上げ賞です。

※県議会議長賞は、平面立体部門において県議会議長より贈られる賞です。

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県の美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立され、35歳以下を対象とした賞です。

※はまぎん財団賞は、平面立体部門において（公財）はまぎん産業文化振興財団より贈られる賞です。

※マツダ賞は、平面立体部門において松田油絵具（株）より贈られる賞です。

※厚木市文化振興財団賞は、厚木市在住の出品者を対象とした賞です。

※県立近代美術館賞以降の賞は、創設順に記載しています。

※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者の提供によります。

※都道府県および市町村名は出品者の現住所です。

平面

横井 佑次	十二支と仲間たち 2018
瀬川 寛	水田の翠碧／緑
秋山 泰宏	SOKONIARUMONO
阿藤菜々美	奏でる
宮野 寛子	あまあい
後藤 夢乃	Courtship
渡部 未乃	Overlap V
井手元咲良	静流
細川 友萌	箱庭
川口瑠利弥	06：02
伊藤 夏実	丸まる
徳江 益美	春・夏
日塔 唯華	日差し
康 希明	nomikomareRu シリーズ 消化 I
前田 乃映	静止工場
大塚とみ子	宇宙の響き
満武 京子	葡萄図ー風がふいた日
坂本久美子	Pocket
中村 寛治	MINATO
阿部 智子	RDT12-L2 時の雫・レーテ河・埋もれる
松浦 功文	形ー滝
戸松 豊	躍翔泰寧番鳥 (対幅)
石川美奈子	Another landscape ー1910 年 2017 年、横浜の気温データよりー
安田 文夫	雨夜の女子会。または彼の世の…
城倉 綾子	In the Night
横山 陽一	夢のまにまに
木村 哲也	猫食堂
杉山 衿香	私はタニシになりたい
福島あゆみ	Not on the inside
大浦 雅臣	見ようとするこ
鈴木由記子	春を かぞえて。
大西 理史	水の神殿
成川 純子	sewing studio
河野 良雄	聖肅・水泡
伴場 園江	舟屋ろうろう
井口 信	命の樹
石原 肇	廻る
桐谷真理菜	往来する感情 (希望)
吳 逸萱	万華鏡の夢

楽 嘉怡	「もし浮世絵の人々が現代社会を旅したら」
横山 俊光	石球のある風景ー漂流
許芝	美意識の繰り返し
橘 つづり	ここにいる
濱田 千晴	みられる事物
青木 智	LIFE180609
井上 あや	連理の枝
岡田 寛	WAVE2018
永井 祥浩	予感と微熱
財田 翔梧	めぐる季節
齊藤 拓未	safe place
三觜 裕哉	CONNECT
SUZUKIMI	Patilla のゆくえ
岩瀬 哲夫	Mix
西山 巖	チチカカの想い出
佐藤 英行	からすの寝床
知久 茂雄	記憶の街・秋
広瀬 弘幸	砂々 1
葉栗 翠	1906 年 5 月 22 日 藤村 16 歳
上谷田弘代	世界はフラクタルでできている
佐々木房子	幻影
三富美恵子	深海
茂川 豊	明日へのメモリー (鶴巻排水機場)
吉村 一二	紅葉
樋代 洋子	自由になりたい
鈴木 洋子	結ぶ B
平林 英一	島へ／フェリー
森田 稜子	貌 A
六島 芳朗	空を見る
美濃 寿則	農道 (横須賀市 子安の里)
飯村 優介	水象 スイジン
中村 裕子	ある晴れた日に
郷古 和	北帰行・気配
久留宮和子	広がる宇宙
横山 芙実	往来の人
辻本 興一	ローテンプルク (ドイツ)
小井 風花	「僕は、気狂い。」
室井 麻未	cycle-02
廣瀬麻里子	うつろい
名執 一雄	LIFE

※掲載は作品番号順です。

立体

奥田 誠一	光の欠片・光の波紋・光の砦
ノグチミエコ	10 ^x m Where are you?
玄刃	曼陀羅ぼっち
白鳥 晶子	生命のかけら
坪井 真	力能と可塑性
村上 力	My Favorite ～「国語」
村越 通浩	華のワルツ
たなかあきこ	メビウスの種
佐々 裕治	刻
上岡 安里	沈まないために
田中 雄斗	Human
轟 颯馬	鞆塊
三木サチコ	Boundary Zone
吉野俊太郎	消えたオーミエール
竹村 芳樹	溝
飯島 祐奈	ruin
田平 徹	宙を見る
松山 学	青目の男
堀口 真寿	九条ねぎ 2018
鈴木沙也果	おふくろう
平野 恵子	原点
平野 恵子	floating stone
モリタワカナ	Human
越智 彩	ライン
上原 佳代	star navigation
山本 豊彦	愛または束縛

平面立体部門の審査を終えた時、「光」という言葉がキーワードのように浮かんできた。作品の中にしか存在しないような光をいくつかの作品から感じ取っていた。同時に、目を閉じた闇の世界に浮かぶ、光とも呼べない何かの存在も見つめていた審査だったと気づく。

今回は平面作品364点、立体作品65点の応募があった。一次審査で平面89点、立体29点の入選作品を選び、二次審査で賞候補作品を選出し、最後は5人の審査員の持ち点による投票によって平面10点、立体3点の各賞が大賞から順に決定された。

一次審査で多くの票を集め、最終的に審査員の得票が最も多く大賞に決定した高橋静江さんの平面作品「CITY LIFE」は、高層階から俯瞰した夜景がガラス張りの室内に映り込み、さらに室内と一体になったような不思議な空間が目をつけた。細部にも魅力があり、目がいつまでもその世界にいたいと思った。紙に色鉛筆で豊かな光の変化が表現されている。

準大賞受賞の張静雯さんの「城」は、闇の中に自らが放つ光で浮かび上がる集合住宅を抽象的に捉えている。現代社会の画一性や孤独を象徴させることの多いモチーフだが、この作品には詩情があり新たなイメージを創出している。

特選の手嶋遥さんの「螢」は柔らかな線と淡い色彩のレイヤーが空間を織りなす。タイトルから、浮遊する円形が発光する蛍なのだと気づくが、画面全体から透過するような光が魅力的だった。

上位に並んだのは偶然にも光を意識的に捉えた作品だったが、それらと競ったのは、微かな光の中に何かの存在を感じ取るような作品で、以下2点の作品は特に印象に残った。リンデン絢子さんの「Sinking in Oasis」（かながわ賞）は小品にもかかわらず一次審査から注目を集めた。一見何もない草叢に見える画面の中に、比率としてはあまりにも小さい人物の存在を見つけた瞬間、その世界から出られなくなる、そんな感覚がよぎった。都築良恵さんの「緑子」（美術奨学会記念賞）は一度見たら記憶から消えないような力を持っている。土着的な怨念、情念のようなものを、改めて現代に生み直そうとしているのだろうか。

秋山由佳さんの「樹」（かながわ賞）は、墨の微妙な濃淡によって細部が丹念に描かれ、抑制された画面から静謐な世界が立ち現われようとしている。豊原聖一さんの「あたしのおねだり」（県議会議長賞）は、岩絵具であえてポップな世界を描ききる技術と、癖になるような色彩の強さが圧倒的だった。伊藤ちさとさんの「doily」（美術奨学会記念賞）は、植物と文様の中のような形態と、触覚的な油絵具の塗りに魅力があった。小林真央さんの「Mont Blanc March」（マツダ賞）は、空想の赴くままに出現したような様々なものが丹念に描き込まれ、謎を解くように見ていたい作品である。小平功一さんの「One fine day 2018」（厚木市文化振興財団賞）の、フォトリズムゆえの非現実的な情景はインパクトがあった。

立体作品では、大井真希さんの「cantabile」（県立近代美術館賞）が注目を集めた。陶によって有機的で複雑な形態を生み出した技術とその美しさが高く評価された。まさに光を素材とした、宙宙さんの「Cube of the Light 1」（奨励賞）は、どこが光源なのかを探しているうちに、いつの間にかその中に入って光に包まれているような錯覚を味わう。彫刻とも装置とも名付けられない発光体である。澤村崇太郎さんの「あとどれくらい僕は深く潜れるだろう」（はまぎん財団賞）は、水中の泡と一体化したような逆さまの潜水ダイバーの虚脱的な存在感が印象に残った。

意識的に表現されていることよりも、潜在的に表現されてしまったものが図らずも時代を映していることがある。作品に映し出されているものに目を凝らそうと審査に臨んだが、実際は私自身の光の感度を試されているような審査でもあった。神奈川県美術展は審査員が毎回異なることによって様々な傾向の作品が応募されるのも特徴のひとつだが、この美術展を最初の目標にする美大生や、作品をつくり続け、挑戦し続ける常連の方々まで幅広い年齢層の出品者の熱気を感じた。全国公募となって、さらに県外からの出品者も増えて注目度も高くなってきている。今後もこの美術展が新たな作品との、そして作品を通しての人と人との出会いの場であって欲しいと切に願う。



大賞

CITY LIFE

高橋 静江

紙、色鉛筆
130.3×194cm

[略歴]

1945年 埼玉県生まれ
1967年 大学卒業

[受賞歴]

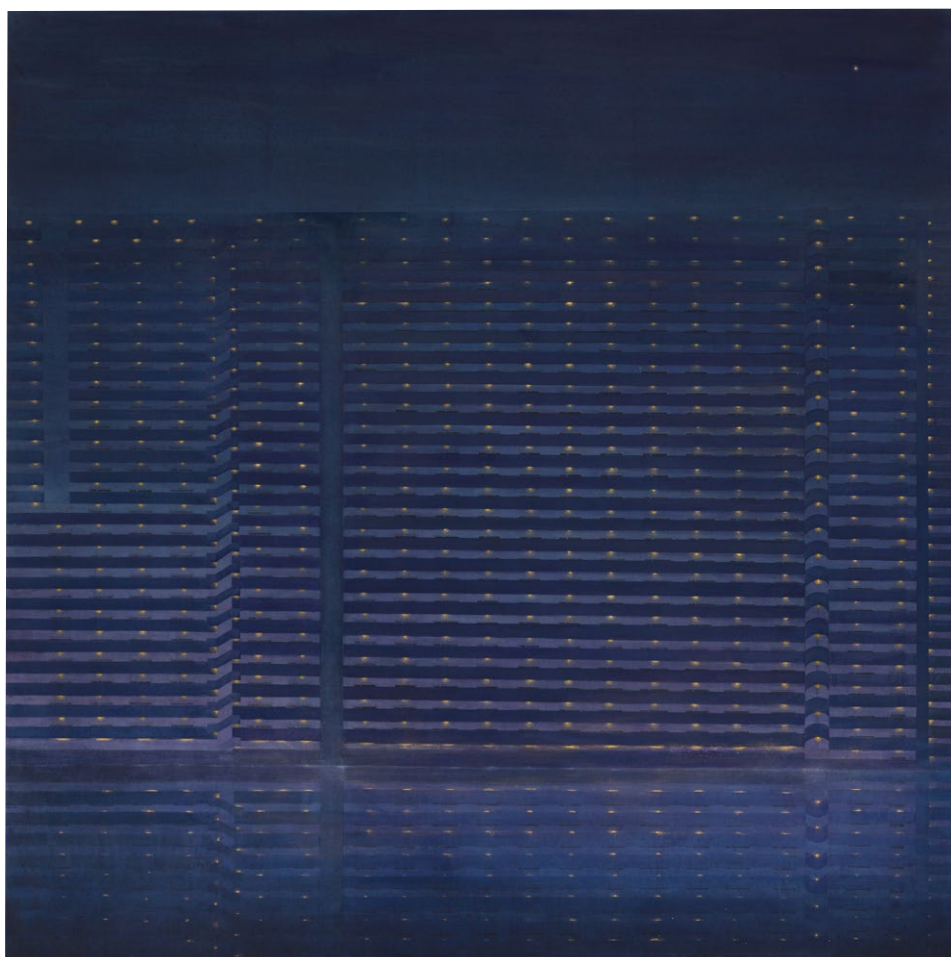
2009年 北陸中日美術展 入選
2010年 北陸中日美術展 入選
さかいでArtグランプリ 佳作
2011年 北陸中日美術展 入選
青木繁記念大賞西日本美術展 入選
2012年 ビエンナーレうしく 入選
2014年 第67回瀬戸市美術展 奨励賞
2015年 FACE展2015損保ジャパン日本興亜美術賞展 入選

準大賞

城

張 静雯

雲肌麻紙、
岩絵具、水干
162×162cm



[略歴]

1979年 台湾生まれ

[学歴]

2002年 国立台湾芸術大学美術学科水墨画専攻卒業
2015年 東海大学大学院芸術研究科膠彩画研究領域修了
2018年 多摩美術大学大学院美術研究科博士前期課程絵画
専攻日本画研究領域 1年在籍

[受賞]

2012年 桃源美術展 膠彩画部門 第一位
東海大学師生美展 膠彩画部門 第三位
2013年 桃源美術展 膠彩画部門 入選
全国美術展 膠彩画部門 入選
2014年 東海大学師生美展 膠彩画部門 第二位
2016年 高山国際教育財団2016年度奨学生 選抜

[展示]

2013年 都市漫遊 張静雯個展 東海大学A+芸術空間／台中、台湾
日常塵埃 東海43号芸術実習センター／台中、台湾
2014年 蘊芸 台湾東海大学芸術センター／台中、台湾
LOOP—自覚と自決の中で 静宜大学芸術センター／台中、
台湾
藝術新声 台中市文化センター 大墩芸廊／台中、台湾
2015年 懐かし眷村の味わい 眷村美食饗宴 張静雯×賀羽薇 馬祖
新村／桃園、台湾
生活の「窓景」：生活空間、環境とアイデンティティ 芸術
銀行／台中、台湾
顯／隠：この00世代 彰化県立美術館／彰化、台湾
日常・遊走と観察—張静雯創作個展 東海43号創芸実習
センター／台中、台湾
2017年 未來の収穫祭 丸亀市生涯学習センター／丸亀、日本
2018年 ART & DESIGN FAIR 2018 ACT ART COM／新宿、日本

[収蔵]

台湾文化部芸術銀行



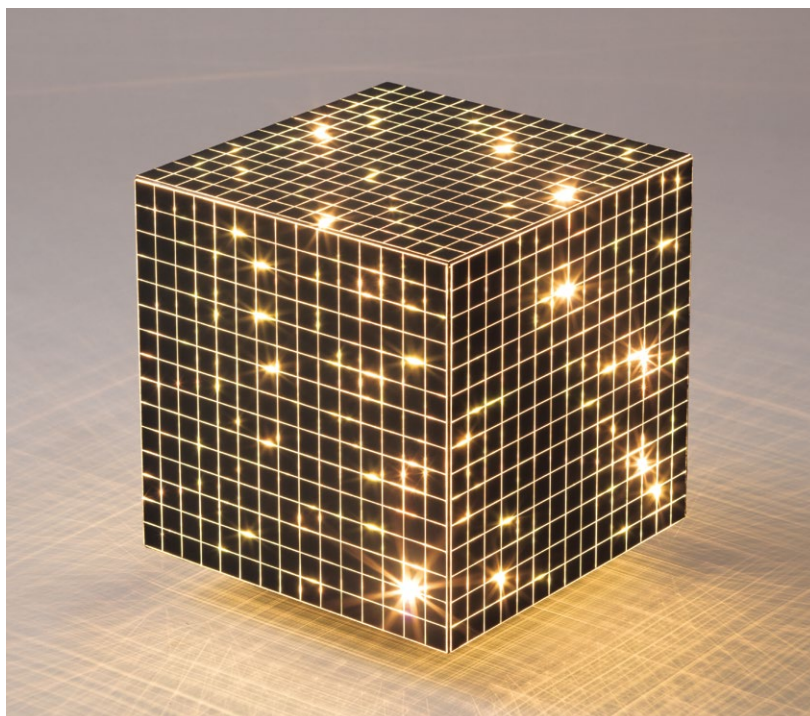
特選

螢

手嶋 遥

日本画

220×185cm



奨励賞

Cube of the Light 1

宇宙

鏡、電球、木材、シリコン、塗料
34×30.5×30.5cm 4kg

かながわ賞

Sinking in Oasis

リンデン 絢子

テンペラ、木製パネル
46×55.5cm



かながわ賞

樹

秋山 由佳

墨、岩絵具、和紙
181×227cm



県立近代美術館賞

cantabile

大井 真希

陶
115×85×59cm 42kg



県議会議長賞

あたしのおねだり

豊原 聖一

岩絵具、水干、箔、高知麻紙
194×156cm



美術奨学会記念賞

doily

伊藤 ちさと

油彩、キャンバス
227.3×181.8cm

美術奨学会記念賞

緑子

都築 良恵

岩絵具、墨、高知麻紙
217×194.6cm



はまぎん財団賞

あとどれくらい僕は深く潜れるだろう

澤村 崇太郎

樟
200×50×50cm 50kg



マツダ賞

Mont Blanc March

小林 真央

油彩、キャンバス

162×130cm

厚木市文化振興財団賞

One fine day 2018

小平 功一

油彩

162×162cm



工芸・書・写真

2 期展

受賞作品目録

工芸

大賞	佐野 圭亮	群馬県	夜の訪れ	漆芸
準大賞	中村恵里花	埼玉県	何が見 (かがみ)	染織
特選	伊藤 昭仁	横浜市	愚生門	陶芸
奨励賞	増山 明恵	栃木県	Heliconia	漆芸
かながわ賞	玉田 恭子	横浜市	むらさきの日綴り	ガラス工芸
かながわ賞	石橋 聖肖	茅ヶ崎市	片刻連旦	金工
美術奨学会記念賞	大澤 悠介	埼玉県	ほとぼしる	ガラス工芸
美術奨学会記念賞	柳川 晶子	岐阜県	comori	陶芸
ホテルニューグランド賞	金澤 碧	東京都	それはかつてあった	ガラス工芸
厚木市文化振興財団賞	岡田 光子	厚木市	宇宙の謎	陶芸

書

大賞	新井 幸舟	横浜市	龍江紀事
準大賞	松尾 純子	横浜市	生徒諸君に寄せる
特選	生駒 蘭嵩	鎌倉市	温庭筠詩
奨励賞	岡田 珠美	東京都	茂吉の歌
かながわ賞	西澤 蒼海	横浜市	王漁洋詩 大廟峽
かながわ賞	原 龍児	横浜市	南浦紹明語
美術奨学会記念賞	岡田 佳舟	横浜市	秋暁
美術奨学会記念賞	日守 鍊	中郡大磯町	夢の融解
県文具事務用品団体連合会賞	河又世津子	川崎市	あさみどり

写真

大賞	小村 真以	横須賀市	ランチタイム	
準大賞	伊部 慶一	横浜市	幽韻	3 枚組
特選	吉村 奈々	東京都	ロマンティックガーデン	
奨励賞	横山 渚	東京都	自然崇拜	3 枚組
かながわ賞	高浦 正幸	横浜市	お地藏様のある路地	
かながわ賞	大澤 勇	横浜市	躍動	
美術奨学会記念賞	あかやまゆい	東京都	穏やかな日々、行く当てもなく	3 枚組
美術奨学会記念賞	松島 千晶	相模原市	spot I	
ニコン賞	笹原 美紀	横浜市	愛の挨拶	

※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の出品者を対象とした賞です。

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立され、35歳以下を対象とした賞です。

※ホテルニューグランド賞は、工芸部門において(株)ホテル、ニューグランドより贈られる賞です。

※厚木市文化振興財団賞は、厚木市在住の出品者を対象とした賞です。

※県文具事務用品団体連合会賞は、書部門において県文具事務用品団体連合会より贈られる賞です。

※ニコン賞は、写真部門において(株)ニコンイメージングジャパンより贈られる賞です。

※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者の提供によります。

※都道府県および市町村名は出品者の現住所です。

工芸

中村 綾也	彩雲龍伝【式乃巻・神化】 メタルエンボッシングアート	
石川 秀隆	炎舞-E	陶芸
吉田 浩一	Jupiter	ステンドグラス
本木 理紗	夕景	ガラス
金子 恵子	桃笑う	染織
阿部 順子	草木染まる文帯地	型染
阿部 順子	草木染服地	型染
久木田克己	寄り添う	編み組み細工
萩原 雄一	FACING：直面	革工
原 加奈子	つがいの鳥	ガラス
下平久美子	風にとけゆく……	磁器
鬼原 美希	瞳の記憶	染織
篠原 祐介	帰ろう	革工
小林 広美	硯箱「MOON CYCLE」	漆芸
ザラズア ラファエル	venado veneno	ガラス
瑩山窯	渦流紋鯨鍋	陶芸
千葉ひろみ	かくれんぼⅠ, かくれんぼⅡ 陶芸(陶画)	
加藤 菊文	コンポート	木工
山崎真梨恵	うねり	陶
戸叶 恵介	龍文金彩壺	陶芸
竹岡 健輔	歳月	ガラス
石河美和子	はまいろのけしき	染色
藤田 慎治	重焼花生	陶
林田 洋子	おはなしの木	陶芸
生頼美砂恵	揺	陶
福島 直子	稲の水面、星の瞬き	ガラス
山田 公也	流水紋掛分 藍彩大皿	陶
糸井 静枝	錦秋の湖	ちぎり絵
長谷川夏子	窓辺	漆工
hana	ジヴェルニーの庭	ステンドグラス
嶋本 理乃	花の海	和紙工芸
中山 愛子	Bloom	陶芸
阿部 貴央	ガラスのサッカーシューズと地球ボール ガラス工芸	
小酒井基紘	サファリパーク	綴れ織り
Les Fils	保食神・輪廻転生	人形
田中 七苑	ぬくもり	陶

澤田麟太郎	storage.2018.7	陶芸
北村 隆浩	閃光茶杓	木工
綿谷 直子	祈り	ガラス
山本貴美子	ephemera	陶芸
Modeling nail design artist Hiromi Hasegawa	糸蜻蛉 (Thread dragonfly)	アクリル
野崎 佑実	天真に任す	テグス
中田ナオト	Spring Time	陶
柴田 菜月	Scope	陶
塩田 裕未	君のため、自分のため	ガラス
古坊 聖子	自由	陶芸
小竹 章子	リズム	陶芸
赤坂 董	Floating sculpture シルクスクリーン(染)	
安部 邦子	モンローウォーク - 2018 -	陶芸
田中 里奈	大切な寄り道	パティック・ろうけつ染め
田中 里奈	光と影とその間	パティック・ろうけつ染め
橋本 萌花	自然と一つになって走るシカくん	陶芸
佐藤 芳明	織部を愉しむ	陶
鯨虎じょう	雑談は手びねりから始まる	陶
速水 結莉	たわむれ	陶芸
西森 彩晴	友禅染帯「優麗」	染織
高橋 英昭	土のかたち	陶
田中 好子	ろうけつ染め「アルミホイル」	染色
大塚 國男	はじまり	陶芸
志賀 邦範	危ういトランプ0954	陶
長谷川智彩	飾り箱	截金
王 海倫	モックんとムックん	陶芸
阿南 貞子	PLANT	七宝焼
塚田 真実	間について	ガラス
大杉 幸代	海宝紅華Ⅱ	陶芸
細谷 隆	ブルー・スパイラル	陶芸
井原 香織	透き通る花の精	陶芸
後藤 有美	Modern Vanitas	陶
伊藤 和弘	ブルーライトヨコハマ	陶芸
金 明子	Betta	ワイヤーディップアート
高野源太郎	染付あけび文陶筥	陶
植松 勇人	渦	木工
二俣 吉秀	革の世界 (学生のちゃぶ台)	皮革

※掲載は作品番号順です。

工芸

小山田雅之助	うつわ（記憶）	陶
高橋 妹利	闇のち光	メタルエンボッシング
田中 ちか	祈り	陶芸
飯野 一代	笑む	陶
遠藤 綾乃	APUNOTOS ～現代神話～	陶芸
興石 孝志	30cmの絶対領域	切り絵
山崎 雄央	夜明け	ガラス
茅野ありさ	その形が抑圧であってはならない	陶芸
小田 薫	孤高の光	金工
大崎 風実	永遠と刹那の出逢い、宇宙	漆工芸
山口 節子	あじさい	刺繍（パッチワーク）
住吉 孝行	雲龍土俵入り	陶
鈴木 典子	花風	陶
木寺由布子	タンゴⅡ	金工（鍛金）
代田 幸江	金箔砂子蒔 菓子器	漆
大寺 純子	海馬（青い記憶）	陶芸
山崎 純子	わすれ花	ガラス
新城すみれ	あじさいの青	染色
新野 晃大	ゲロはいちやった	ガラス

書

平林 李光	萬物之鏡
松本 薫泉	送儲邕之武昌
中西 晃雪	青丹よし…
松田 栖舟	西齋小酌
遠藤 子杏	如月之恒
増田 珠香	残照
佐々波雅子	遊宴
中澤 春雪	古今和歌集
荒川 涼舟	詠烟
柿沼 柏苑	春江送別
磯部 和泉	騎
黒川 鶴翠	李太白詩
飯島 静翠	重過雨花臺望江有感
重田 鶴耀	王維詩
兎澤 羊舟	月夜坐憶
小澤 雲峰	李白詩
吉川 理芳	月夜臺上聴友人彈琴
橋本 瑛水	夜坐
黒沢 玲香	陶淵明詩「雜詩」
木下 清華	みもろは（万葉集）
上村 泊舟	九日
新井美知子	古今和歌集
池上 恵峰	おもかげに
吉永 幽径	夏日遊山寺
星野 美泉	舞
島村 秀芳	杜甫詩
白井 初枝	雜詩（陶淵明）
森崎 愛芳	劉基詩
多田 太胤	臨升色紙
石塚 紗知	寒椿
吉瀬 春翔	遥かな友に
杉山 和子	日守菜穂子の詩
上野 春海	短歌（佐々木千代のうた）
宮嶋 春峰	北原白秋の詩「砂山」
小林美知子	京の川
佐々木瑞枝	掌のぬくもり
小林 千幸	幸せな朝
木村 純子	めい子の詩
比留川秀水	故郷（高野辰之の詩）

書

長井 黙庵	東山魁夷の詩「湖静」
吉村 明子	雪野（東山魁夷の詩）
岡田 明子	セントメリーにて
香川 翠瑛	小夜曲
高橋 聖陽	都会の駅
中山 政子	サザエさんの頃
阿部 茜蝶	降りしきる
広瀬 明子	ヘッセの詩 初夏の夜
阿彦勢津子	揺れる
児玉 真理	潔白の華
林 蘭愛	白いぬくもり
深沢 和子	朱の実
平澤 毅	龍門像への旅
清澤 可實	ミツバチと針槐
水野 彩苑	湯気の先に見えるもの
両角 花生	海の囁き
笠原 啓子	陶山由利子の歌
加藤 美和	金槐和歌集
岩壁 聖濤	登高
中村久仁江	春
下門 芳子	花
小林 堯霞	張祜詩
古矢 春暄	孟貫詩「寄山中高逸人」
菅野 優子	夢中問答
浅見 玲湖	常建詩「西山」
片岡 稲處	張説詩 滙湖山寺
中川 堯紫	司空図詩
前橋 蒼峻	落索河有感
牛山 香流	王漁洋詩 德州答鄭山公留別之作
富塚 香峻	李白「夜泊黄山聞殷十四吳吟」
中尾 直子	見わたせば
河田 玲洸	春くれば
山田 緑亭	呉昌碩詩稿
森 俊行	春のよの月
鯉沼 紫虹	朱茂暉の詩
池上 節子	皎然詩
池田 玲舟	柳宗元詩
荒木 游莫	阿吽
水本 知葉	妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五

中田 早苗	然後以境照之
芳屋 瀬奈	融通無礙
小林 拓也	「顔氏家訓」勉学
古里 航	竹聲松影

※掲載は作品番号順です。

写真

三村 信昭	妄想の平和	
最上ぬい子	大雪の日	
大野 詳平	雨道	3枚組
荒島 謙一	宇宙飛行士着陸	3枚組
皆川 幸恵	Splash	2枚組
商 家訓	花とチャリンコ	3枚組
木村 宣夫	屋根の連なり	
和田 政夫	寒行托鉢	3枚組
渡部百合子	光波	
宮坂 鈴子	静寂	
加藤 輝男	願わば叶う	
大出 光信	大衆演劇	3枚組
三谷 享	歳月	3枚組
小高 紘佑	楮の里	3枚組
相原 新一	孫のおんぶ	
市川 雅章	ああ無情	2枚組
津金 勝技	人生いろいろ	
八坂 梨奈	木陰に宇宙	
北村 隆浩	待つ男	
清水 治弘	朝霧の中で	3枚組
うめまる	ノコッタノコッタ！	
漆原 利大	憤怒	
稲次 正知	粋な黒堀	3枚組
鈴木 隆明	思い出が残る街	3枚組
鈴木 栄子	冬の宝石	
菅原 郁夫	風雪の樹景	3枚組
多田 航	染む	3枚組
遠藤 正一	挑む	3枚組
竜崎 浩	20171012 陸前高田 (12m 以上)	3枚組
市村 俊介	唯ぼんやりとした不安	3枚組
萩久保次郎	浮遊	
津田 祥夫	滑走	3枚組
神 泰郎	建築中の国立競技場	
鈴木 計子	傷心	
土屋 義昭	sea side story	3枚組
渡辺 弼	生きる	2枚組
渡辺 英美	追憶	2枚組
小島 満男	横断歩道	
山西 郁実	メモリー	3枚組

今野 良一	アートな断面	3枚組
木上 博之	築地・去りゆく情景	3枚組
佐藤 健司	ホタテ漁	3枚組
牛木 実	偶然	
今岡 裕文	苦悶	
林 知道	Route 134	
氏家 正	無言の流れ	
悠希 (yukidigis)	この国の色	3枚組
憑馳	旅先にて、宛先にて	3枚組
松本 拓也	家族	
石田省三郎	CROSS RAY TOKYO	3枚組
宮園 葉月	5月15日、横須賀	3枚組
鈴木 康弘	緑を映して	

※掲載は作品番号順です。

工芸は伝統的なものというイメージを持たれている人は多いかと思います。その一方で現代工芸という言葉もあって、狭い意味では伝統に対峙する“現代”であり、広く「現代の工芸」を意味する場合には伝統工芸も含めて使われたりします。“現代”という言葉が英語に訳する場合には、modern（モダン）もしくはcontemporary（コンテンポラリー）という言葉が該当します。モダンという言葉はポストモダン（近代以降）という言葉があるように、歴史的な意味での“現代”というニュアンスが含まれています。他方、コンテンポラリーという言葉は“同時代”という意味合いが前面に出てくるようです。本展の工芸部門は、この意味でのコンテンポラリーな工芸をその領界とするものであると考えていますので、いわゆる“（現代の）伝統工芸”もその対象に含んでいます。ただし、本展の審査では、単に技術や意匠表現の完成度だけでなく、創作性（オリジナリティ）と技術力・意匠力のバランスということが評価の主眼点となっています。

今日の工芸領域においては、従来“手芸”という呼称で工芸とは一線が画されていた分野（和紙ちぎり絵、七宝、刺繍、西洋人形など）の作品も多く出品されてくるようになりました。“手芸”とはいえ現代美術の領域にもどんどん進出していつている現状においては、コンテンポラリーな工芸にもその現象が見られるのはむしろ自然なことといえます。ただし、それでもやはり“ホビー（趣味、hobby）”とは一線を画したい。飽くまでも工芸としての技術・意匠の昇華の度合いが評価の基準になります。

さて今回の大賞受賞作品、佐野圭亮作「夜の訪れ」（漆芸）は審査員の圧倒的な支持を得ての受賞です。古典的且つ現代的、東洋（仏像）的且つ西洋（彫刻）的、具象的且つ抽象的、といった表現の二極性を統一して総合的な立体表現を実現した完成度の高い創作です。準大賞の中村恵里花作「何が見」（染織）と特選の伊藤昭仁作「愚生門」（陶芸）は、評価は甲乙つけ難かったのですが、最終的に「何が見」の意外性に軍配があがったというところでしょうか。布を染色

した平面作品ですが、一見メタリックな質感の表出に惹かれるものがあります。伊藤は一昨年にも特選を受賞しています。しかし作品の内容には飛躍的な進歩が見られます。一見荒々しくダイナミックですが、全体の構成やバランスのとり方に神経の繊細なはたらきが感じられます。

奨励賞の増山明恵作「Heliconia」は植物の観察から発見した形が新鮮に感じられます。漆の質感とも合っています。

かながわ賞の2点のうち、玉田恭子作「むらさきの日綴り」（ガラス素材、キルンワーク）は現代の技術と伝統美が魅力的に融合しています。われわれが評価する“伝統工芸”はこういう作りのものです。石橋聖肖作「片刻連旦」（金工）は玄人受けのする制作です。

美術奨学会記念賞の2点のうち、大澤悠介作「ほとばしる」は形態表現がちょっと意表を衝いています。そしてガラスの特質を巧みに生かして幻覚感を取り込んでいます。柳川晶子作「comori」（陶）は陶技のこなれた手堅さが印象に残る作品です。

ホテルニューグランド賞の金澤碧作「それはかつてあった」は、造形されたガラスのクリアで詩的な美しさ、といった想念を誘い出すような造作です。今後の成長が期待されます。

厚木市文化振興財団賞の岡田光子作「宇宙の謎」は前回に続いての受賞。一段の進歩が感じられます。一見地味な作りですが、見るほどに作品の世界に引き込まれていくようです。



大賞

夜の訪れ

佐野 圭亮

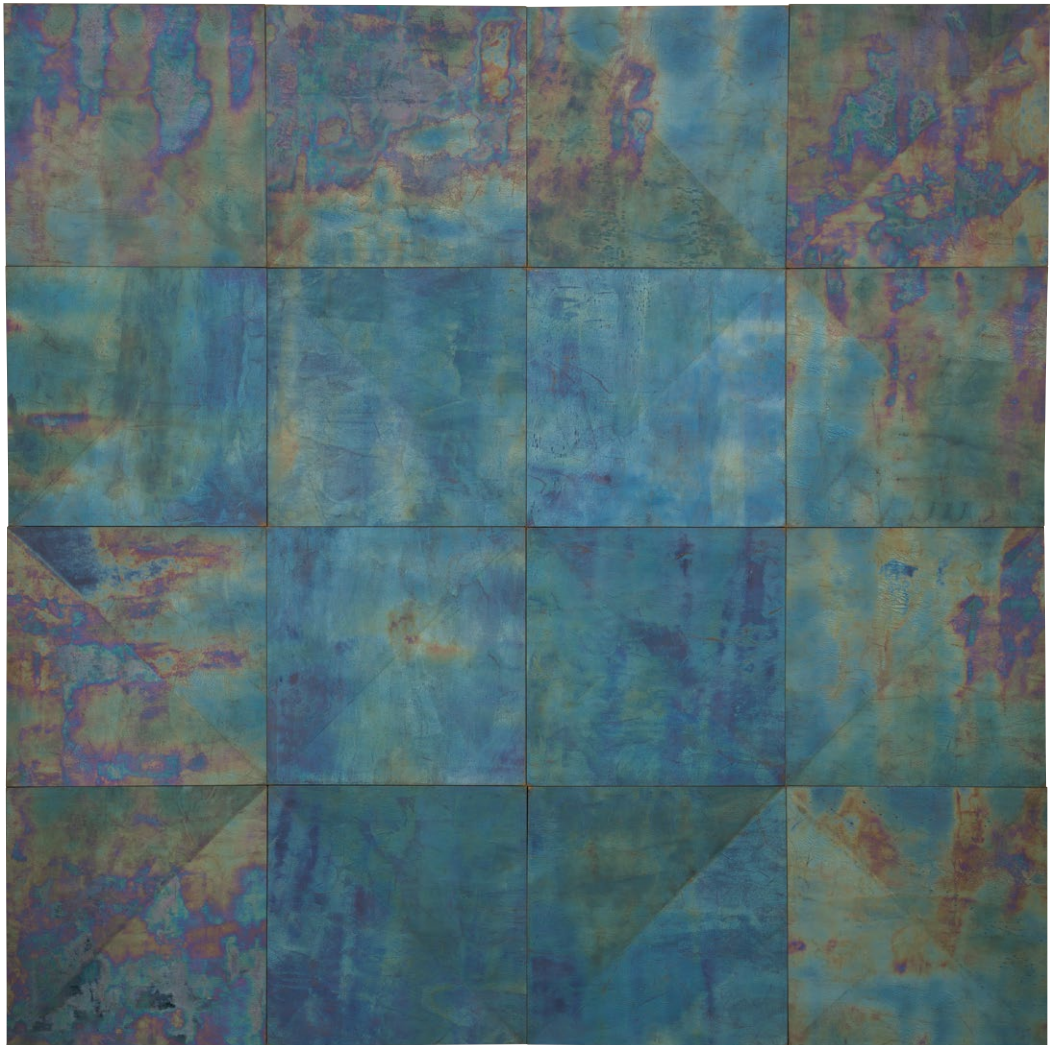
漆、麻、貝、金、他
130×50×50cm 8kg

[略歴]

1994年 群馬県生まれ
2017年 東京芸術大学美術学部工芸科卒業
2018年 同大学院在

[受賞]

2017年 第65回東京芸術大学卒業・修了作品展
荒川区長賞
2017年 第6回蕎麦猪口アート公募展 特別賞
2018年 東京芸術大学 安宅賞



準大賞

かがみ
何が見

中村 恵里花

綿布、木
180×180cm 20kg

[略歴]

- 1993年 埼玉県生まれ
- 2014年 女子美術大学短期大学部造形学科
デザインコース創造デザイン テキスタイル卒業
- 2015年 女子美術大学短期大学部専攻科
造形専攻創造デザイン テキスタイル修了
- 2016年 女子美術大学短期大学部
デザインコース テキスタイル研究生
- 2017年 女子美術大学 美術研究科美術専攻博士前期課程工芸(染)在籍

[受賞歴]

- 2015年 修了制作 女子美術大学美術館賞受賞

[展覧会]

- 2016年 個展「鎮む寂」(Azabujūban Gallery)
- 2018年 二人展 - comma - (ART・IN・GALLERY)
女子美術大学同窓会埼玉支部作品展
第12回 彩の会「100年後の未来へ」(埼玉県立近代美術館)



特選

愚生門

伊藤 昭仁

テラコッタ、木
60×60×30cm 6kg

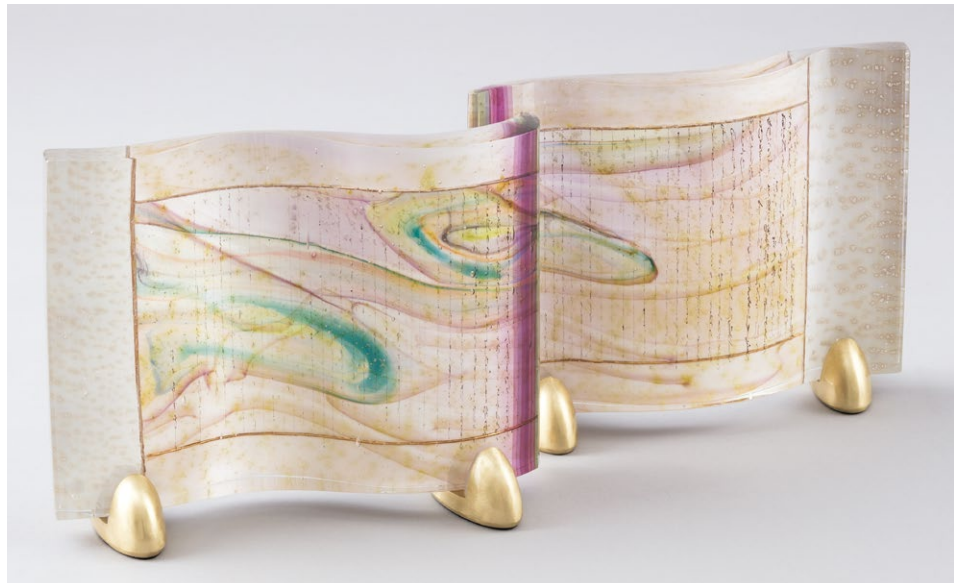


奨励賞

Heliconia

増山 明恵

漆、麻布、コルク、錫
28.5×38.5×7.5cm 350g



かながわ賞

むらさきの日綴り

玉田 恭子

ガラス
25×60×26cm 14kg



かながわ賞

片刻連旦

石橋 聖肖

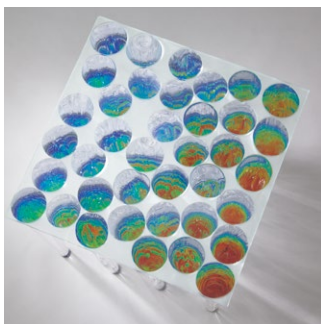
銅、真鍮、銀、銀箔、柱時計
60×50×15cm 4kg

美術奨学会記念賞

ほとばしる

大澤 悠介

ガラス、ダイクロシート
41×40×40cm 60kg





美術奨学会記念賞

comori

柳川 晶子

陶土

63×55×50cm 30kg



ホテルニューグランド賞

それはかつてあった

金澤 碧

瓶ガラス

78×60×6cm 50kg



厚木市文化振興財団賞

宇宙の謎

岡田 光子

陶

23×40×40cm 12kg

第54回となる本展は、全国公募展へと生まれ変わって早3回目を迎えた。主催者および関係者間でも出品点数の増減が注視される中で、今回の結果は総数169点。ここ3回の内では最も多い数であった。そしてこの中より公正なる審査を経て厳選された91点が入賞作品となった。年によって出品点数に増減がある事自体はさほど問題ではない。むしろ全国公募を謳うからには、まだまだ出品点数が多くなってしかるべき、という意見は内外にあるだろう。とくに関東圏における神奈川・横浜の知名度からすれば、現状、主催側の心中は複雑であろうが、期待される目標値は、やはり300点台といったところか。そのためには、まず神奈川県内からの意欲的な参加を促すことが必須である。広報活動を介しての認知度アップも計画的になされるべきだろう。若い世代に対する手立てとしてはSNSほかを用いて呼びかける方法もある。将来の担い手となる高校生や大学生あたりの活性化も、もっとアイデアを出し合い、盛り立ててゆくことを期待したい。

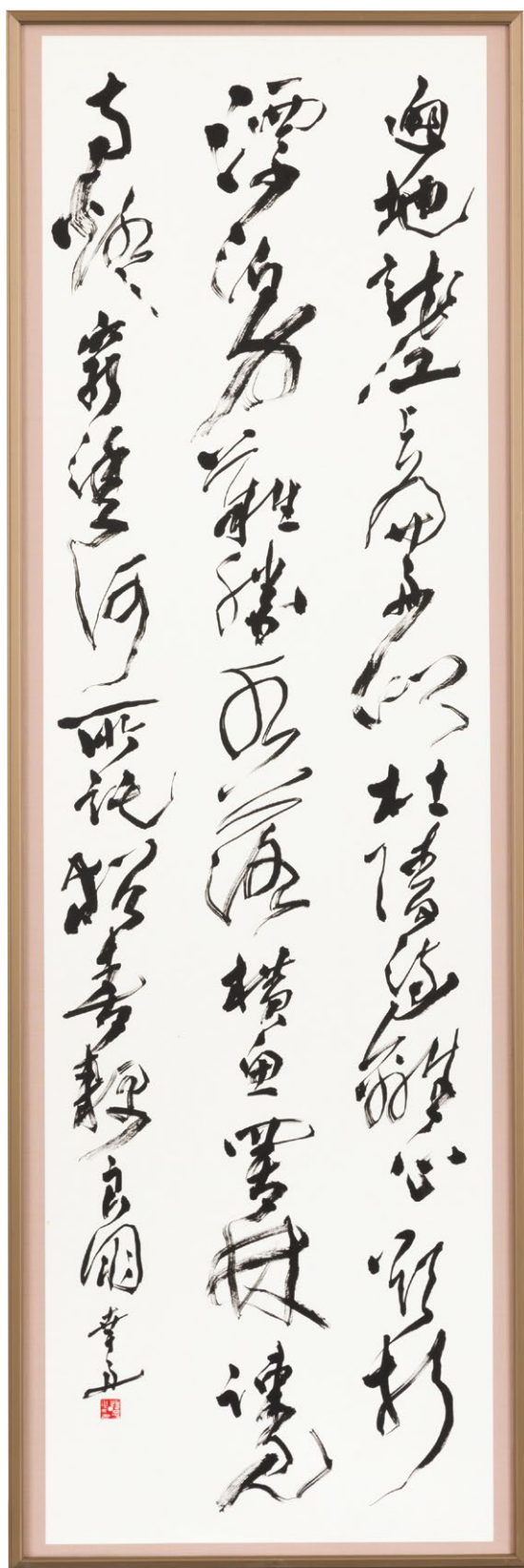
さて近年の出品作の傾向を改めて確認通覧した上で、今回の傾向と比べてみたが、たいそう似ており、変化に乏しい点が特徴となっている。昨年の県展における審査講評でも、同様の指摘がなされていることは重要だ。他県における書部門の実状に照らし合わせてみると、同様の課題が浮き彫りとなる。県展の主たるミッションには、新たな表現者の育成がある。しかしそれは、現行の書壇における制作者のみを対象として語られるべきではないだろう。芸術を愛好する人にとって、制作の営みは、日常の延長にある非日常であってほしい。だからこそ試練あり、冒険あり、挑戦あり、という実感が湧いて楽しくなる。熟達者たちには、見知らぬ同士での他流試合の場でもある。だが書壇との関係もあってか、指導者層、ならびに指導方法について、やや保守的傾向が定着してしまっている様子はやや後向きな姿勢だ。もっと大胆に、もっと自由な発想をもって参加していただきたい。

以下、審査結果を簡潔にまとめておこう。

まず漢字書は行草多字数の縦三行構成が主流で、

横に展開する構成の作品も、もっとあってよい。少字数、大字書では淡墨作品一辺倒で、重厚な濃墨作品が皆無であったことは残念だ。詩文書は字粒の整った平明で上品な表情のものが多く、筆勢の激しく主張性の高い作品は極めて少なかった。仮名作品には華やかさが求められるが、出品数が少ない上、中宇で横に散らし書きを展開させた大人しい作品が主であった。篆刻は丁寧ながら練度としては、まだ学習段階のものが多かった。こうした中から、大賞に選ばれた新井幸舟氏「龍江紀事」は、澄明な作風が好印象であった。筆致の軽快さ、線の多彩さ、変化に富んだ抑揚の表情と安定した構成など、書き手の個性が生き生きと表れた秀作であった。特選に選ばれた生駒蘭嵩氏「温庭筠詩」は、熟達の妙がありバランスの取れた優秀な作品であった。それだけに冷静さが全面に出たことで、知的な気分が強くなりすぎ、得点の伸びを妨げたようだ。準大賞の松尾純子氏「生徒諸君に寄せる」もまた、落ち着きのある作品で完成度の高い仕上がりであった。詩文書の場合、運筆時の筆先のタッチ感が命だ。言葉のリズムと連動することで、作品効果が高まる。紙面に文字をまとめようとする意識が強すぎると、表情が硬くなってしまう。むしろ、どこか一部に破綻を来す箇所があったら、もっと魅力的であったかと思う。他の受賞作については、いずれも努力して書き込まれた“鍛錬”の作品であった。ただ本展の受賞者の中には、昨年も受賞されている方も多く、出来映えにおいて保守的な点が少なからず認められることは、素直に反省すべきだろう。

どうしても公募展の場合には、入賞したい気分が表面化しやすい。そこをあえて、常に実践実験の場と見立て、また新たな自己発見の場としても認識し、冒険的作品を是非、出品していただきたい。



大賞

龍江紀事

新井 幸舟

182×61cm

[略歴]

昭和44年生 神奈川県出身・在住

平成21年 第61回毎日書道展 佳作賞 受賞

平成26年 第66回毎日書道展 佳作賞 受賞

平成27年 第67回毎日書道展 秀作賞 受賞

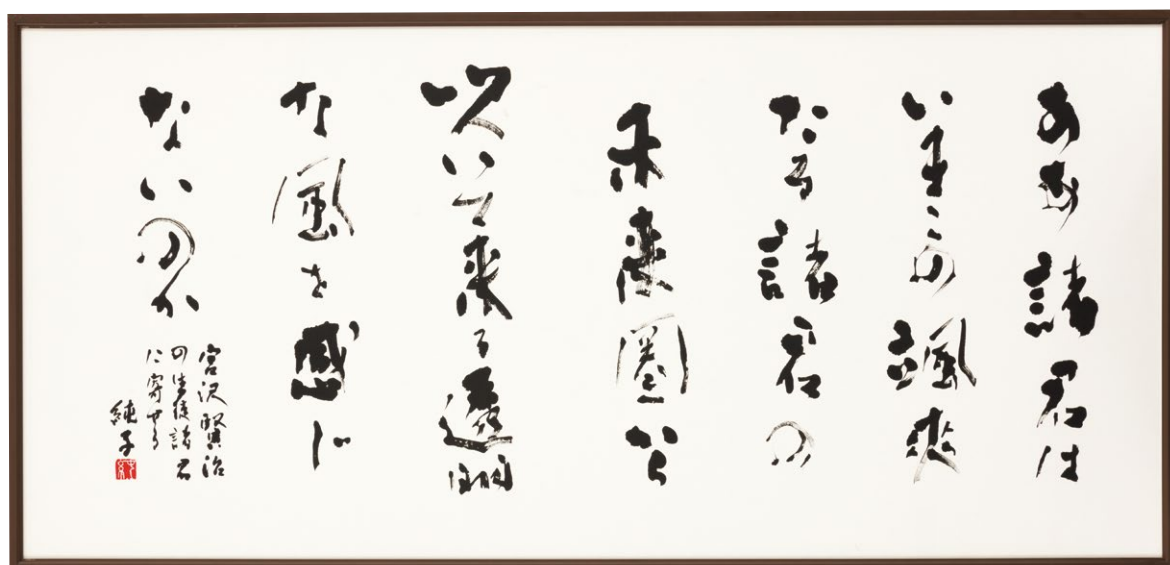
平成30年 第70回毎日書道展 秀作賞 受賞

水川舟芳先生、水川芳竹先生に師事

毎日書道展会友

一瀾書道会評議員

芳林書道院師範



準大賞

生徒諸君に寄せる

松尾 純子

73×152cm

[略歴]

昭和45年 横浜市出身・在住

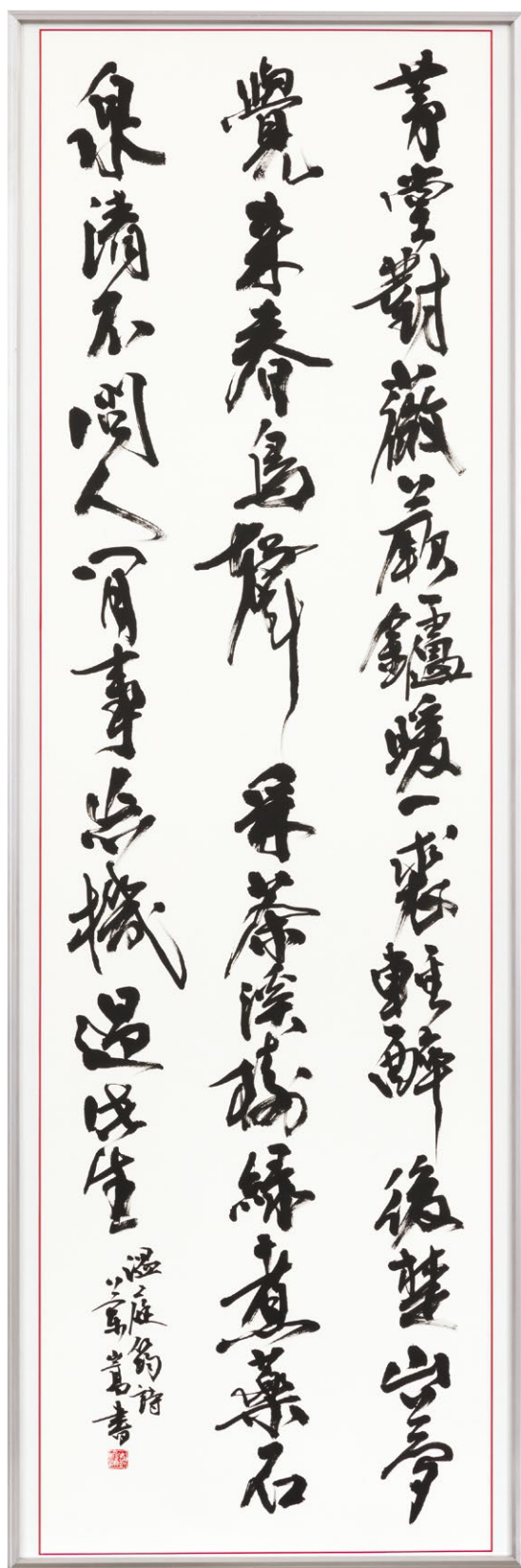
船本芳雲師事

毎日書道展会員

[受賞歴]

毎日書道展 毎日賞2回、秀作賞1回

第48回 高野山競書大会 金剛峯寺賞

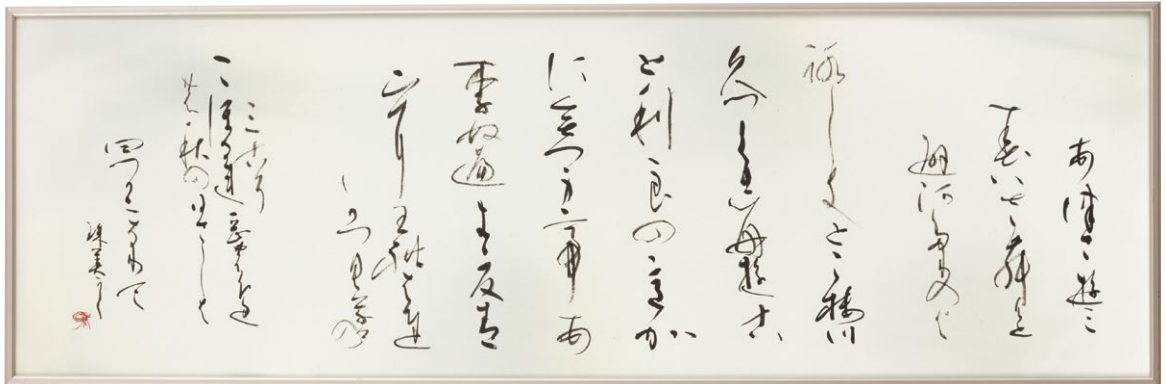


特選

溫庭筠詩

生駒 蘭嵩

182×61cm

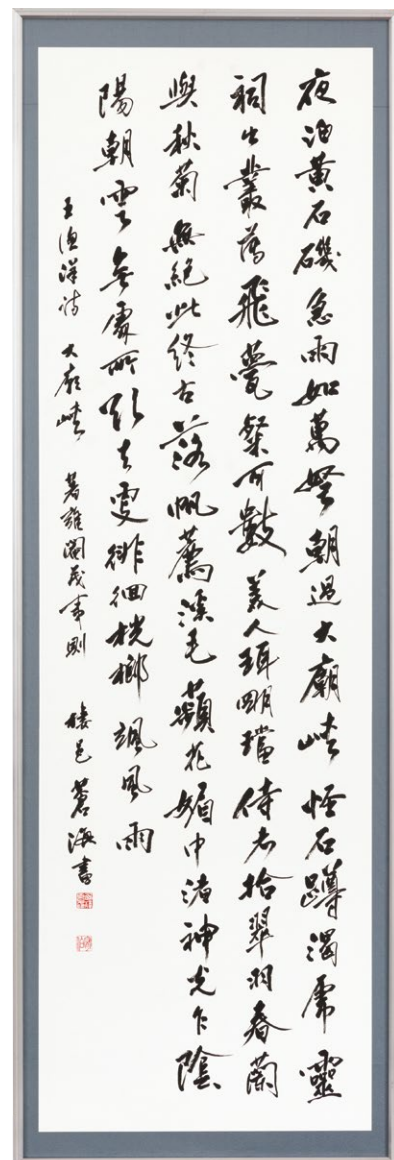


奨励賞

茂吉の歌

岡田 珠美

61×182cm



かながわ賞

王漁洋詩 大廟峽

西澤 蒼海

182×61cm



かながわ賞

南浦紹明語

原 龍児

39×30cm



美術奨学会記念賞

秋暁

岡田 佳舟

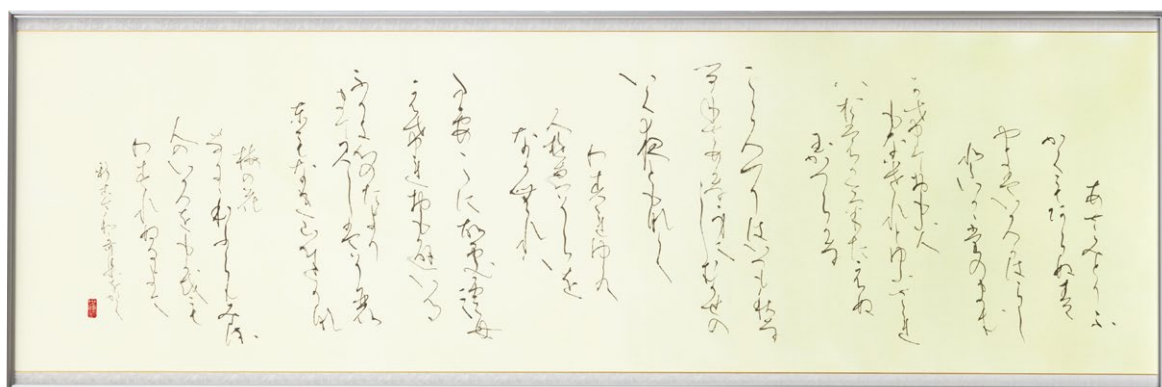
182×61cm

美術奨学会記念賞

夢の融解

日守 鍊

152×73cm



県文具事務用品団体連合会賞

あさみどり

河又 世津子

61×182cm

全体的にレベルが高く、どの写真が受賞してもおかしくないように思われました。入選作品・受賞作品と、惜しくも選外となった写真を分けたものは、ほんの少しの差とも言えます。しかし、その少しの差を埋めていくことの難しさは、応募してくださった方それぞれが既に実感されていることでしょう。

例えば、組写真をどう構成するのか。気に入ったカットを並べるだけでは、印象に残りません。他の写真と結びつくことで、魅力を増す写真というものがあります。場合によっては、思い切ってそれぞれを単写真にしたほうが良い場合もあるようです。

また、プリントの色調に違和感があったり、荒さが目立つと、よい撮影ができていても、見劣りしてしまいます。プリントの癖や欠点は、自分の写真だけ見ているとわからないこともあります。他の人の写真と並べてみる経験は、大きなステップアップにつながりそうです。

審査会場を歩き回りながら、初見で惹かれた作品のいくつかを、上記のようなポイントを理由に選外にしました。入賞作品に共通する特徴は、それぞれ撮った写真を最上の形で見せることに心を配った痕跡がうかがえることでした。

小村真以さんの「ランチタイム」は、階段と裸体の形状と、滑らかな肌と壁の色彩とが調和し、一次審査の段階から強いインパクトを与え、そのまま大賞受賞となりました。肌の質感がプリントで際立ち、好奇心を刺激する巧妙なタイトルも、審査員たちの支持を集めていました。

伊部慶一さんの「幽韻」は、派手な作品ではありません。しかし、その静謐さが、かえって目を引く要素となりました。組写真にしたことで、壁らしきものの表面を眺める快感に、差異を感じる快楽が重なりました。こうした被写体だからこそ、3枚並べる効果ができました。

吉村奈々さんには、独特の色彩感覚があります。セーターが逆さに吊るされた庭先という奇妙なシチュエーションが、やや現実感を欠いた色調によって、より物語性を帯びています。

横山渚さんの「自然崇拜」は、森林の中に落ちる光が、タイトルの通り崇拜や祈りを感じさせます。しかし、このタイトルではなかったとしても、この光の集め方は幻想的で魅力があったように思います。似たカットの組写真でしたが、リズムがあり構成に成功していました。

高浦正幸さんの「お地蔵様のある路地」には、スナップの魅力を改めて体感させてもらいました。写真の端から端まで、どの部分を見ても、快感があります。プリントの出来も良く、手前を歩く猫、背後から来る人物、植木鉢の葉まで、ストレスなく見ることができました。

大澤勇さんは、動く人物の上半身を画面から外すことで、動きをより強調しています。コントラストの高い大胆な仕上げに、脚の力強さを強調する効果がありました。

あかやまゆいさんの写真は、色で組写真の流れを繋いでいます。鮮やかな色彩が瑞々しい印象を与えますが、よく見るとゴミや壊れた傘が写されており、その落差に心を掴まれました。

松島千晶さんの写真は、インスタグラムなどのアプリケーションで加工したようなのっぺりとした色調です。モニター上でも映えるように思いますが、単写真としてプリントで見ること、新鮮さを感じました。

笹原美紀さんの「愛の挨拶」では、背景のボケが二羽の鳥を引き立たせています。緑の中で青い羽やオレンジの嘴がより美しく見えます。枝の位置やピントの具合も良く、丁寧な仕上がりです。

選外になった写真にも、まだ記憶に残っているものが多くあります。おそらくどの方も、手ごたえのある写真を送ったはずで、撮影したときの驚きや、モニターで見たときの感動を余すことなくプリントに昇華して、またぜひ審査会場まで届けて欲しいと思います。



大賞

ランチタイム

小村 真以

〔略歴〕

1993年 徳島県生まれ
2016年 関西学院大学 文学部 美学芸術学専修 卒業
株式会社博報堂プロダクツ 入社
2017年 フリーランスとして活動開始
第53回神奈川県美術展 写真部門 準大賞



準大賞

幽韻

伊部 慶一

[略歴]

1938年 横浜に生まれる

1998～2013年

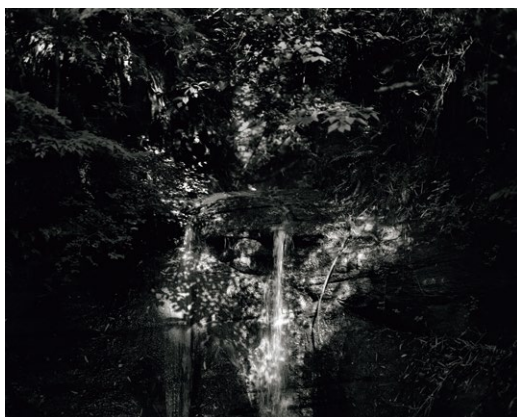
全日本山岳写真協会に所属



特選

ロマンティックガーデン

吉村 奈々



奨励賞

自然崇拜
横山 渚



かながわ賞

お地蔵様のある路地
高浦 正幸

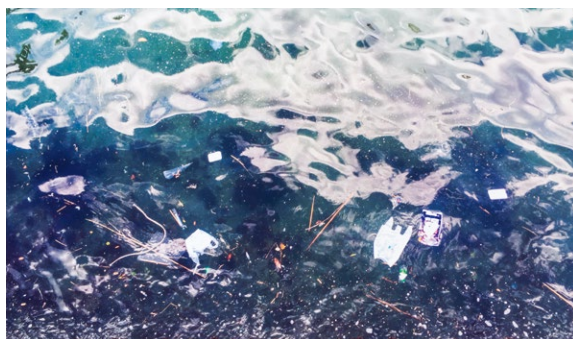




かながわ賞

躍動

大澤 勇



美術奨学会記念賞

穏やかな日々、行く当てもなく

あかやま ゆい





美術奨学会記念賞

spot I

松島 千晶



ニコン賞

愛の挨拶

笹原 美紀

人から人へ情報を伝えて72年
これからも人の心に残る製品を創ります。



UV印刷機導入いたしました

画集・美術展図録を制作から印刷・製本・納品まで
一貫した体制で承ります。お気軽にお問い合わせ下さい。

株式
会社 **気生堂印刷所**
<http://www.kiseido.jp>

〒143-0015 東京都大田区大森西4丁目6番13号
Tel.03-3766-1711 Fax.03-3766-1976
e-mail: print@kiseido.jp

The 54th Kanagawa Art Exhibition 2018

第54回 神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール内

〒231-0023 横浜市中区山下町3-1

TEL. 045-662-5901 (代)

写真撮影：秋葉雅士

印刷：株式会社気生堂印刷所

発行：2018年9月5日

THE 54TH
KANAGAWA ART EXHIBITION
2018